

# 悲願の初出場決めた室蘭・海星学院



初のインターハイ出場を喜ぶ海星学院女子

第68回高体連全道バスケットボール選手権大会(18〜21日・小樽市)で、室蘭市の海星学院高校女子が準優勝、悲願の全国大会出場を決めた。男女共学とともに現校名になった2003年(平成15年)の創部から初のインターハイ出場だ。創部とともに就任した中島洋介監督ほか、OB・OG、卒業生にも長くて短かった13年目の快挙に喜びが広がっている。  
(高橋昭博)

# チーム一丸、13年目の快挙

むろみんスポーツ

## インターハイ女子バスケ「さわやかに戦う」

海星学院は予選トーナメント、旭川藤女子に58-56、札幌創成を72-58で下して4強入り。決勝リーグは、とわの森三愛に75-49、全国が懸かった札幌東商も69-45で快勝。第1代表を懸けた札幌山の手戦は、今大会初のゾーンディフェンスを敷く山の手の奇襲に戸惑って敗れたが、選手たちの集中力は最後まで途切れなかった。

チームは近年、全道大会でベスト4常連の強豪に成長した。新人戦は今春まで3年連続の準優勝だ。しかし、インターハイ予選や選抜優勝大会は上位に進みながら、あっと一歩で苦杯をなめ続けてきた。

今年のチームは、エースでU-18日本代表候補の長岡(3年)が中心。けがで主力を欠きながらも、ガードの遠藤が粘り強くチームを引っ張り、長岡の調子が上がらなかつた決勝リーグは、平野、土谷、角田らがパワープレー、ディフェンスなどで奮闘、チームを盛り上げた。

中島監督は「まだまだ速

攻も使いこなせていないし、簡単なシュートも落としている」と大会を厳しく振り返ったが、全国切符獲得には穏やかな安どの表情も見せた。インターハイに向けては「初出場は会場の雰囲気にもまれて終わりになるかもしれない。まずはけがないように準備をして、初出場らしく、さわやかに、すがすがしいプレーを」と抱負。今後控える選抜優勝大会などの冬に向け

ても「うちはチャレンジジャー。これからさらにチームをつくり変えていきたい。このインターハイをその契機にしたい」と話している。

平野亜実主将(3年)は「準優勝の悔しさはあるが、全国出場目標を達成できてうれしい。周囲の支えもあったので、感謝の気持ちでいっぱいです。インターハイでは、本道の代表として恥ずかしくないプレーをしたい」と声弾んだ。